

烏枢沙摩明王は、炎との関わりがある明王さまで、炎によってこの世の汚れを焼き尽くし、全てを浄化してくださる功德があるそうです。そのためお寺や修行道場では、東に司ると書く「東司」と呼ばれるお手洗いに烏枢沙摩明王をお祀りしています。

お手洗いは、私たち人間にとって、とても大切な場所です。

お手洗いで、普段の生活での飲み過ぎ食べ過ぎやお腹の具合、辛いものや固いものなどどんなものをどんな風に食べたのか。そればかりか、どんな生活態度で過ごしていたのか、健康状態はどうなのかということまで含めて、包み隠さず表れてきます。

修行道場の「東司」、つまりお手洗いで、以前は大便をしても、紙を使わず縄やへらのようなものを使ったり、指で拭くという作法もありました。もちろんその後、手を丁寧に洗うことは当然のことですが、お肉や魚を使わない精進料理を食べ、規則正しい生活を送っていればこそその作法なのかもしれません。

お手洗いで誤魔化しがきかないので、毎日の生活そのものを調えることが大切となり、その意味でも修行道場の「東司」、お手洗いで作法も大切な修行の一つとされてきました。

ところで、ここ数年「食育」といって食事の場における人間教育が注目されてきました。生きていく上で食事をすることは必要不可欠です。そして、入るものがあれば、出るものもあるのがこの体です。食事の場における人間教育が必要であるように、お手洗いに於ける人間教育も必要なのです。

「スリッパを揃えて脱ぎましょう」、「汚したら綺麗にしてから出ましょう」…。お手洗いは他人の目が行き届かないので、人間教育の場として相應しいのかも知れません。

もしお寺のお手洗に行く機会があれば、烏枢沙摩明王のことを思いだしてください。もしお祀りされていれば、丁寧に御参りをしてみましょ。どのような表情をされているでしょうか。お手洗いを正しく使うように、日々の生活を調えるようにと、そんな「いましめ」の表情です。

— 終 —